

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2025.6. VOL.56

contents

極 社会貢献
Social contribution

人 時の人
People in the news

技 研究
Current topics in research

和 お知らせ
Information

医学研究科長就任のご挨拶

医学研究科長・医学部長 片岡 洋望(平成元年卒)

2025年4月より医学研究科長・医学部長を拝命いたしました片岡洋望です。身に余る光栄であると同時に、その重責を強く感じております。微力ではございますが、医学研究科・医学部の一層の発展に向けて、全力で取り組んでまいります所存です。

本学医学研究科は、本年4月の名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院の医学部附属病院化を受け、わが国最大級の2,223病床を有する組織へと進化を遂げました。救急災害医療センターの建築も進行中であり、大学全体の予算規模は国公立大学中4位となっております。この機会を千載一遇のチャンスと捉え、医学研究科のさらなる発展につなげたいと思います。私は昨年度まで、医療DX学長補佐として、6病院群の統合的な医療・研究・経営の機能強化に向けた電子カルテおよび関連システム刷新に携わってまいりました。今後も研究・教育・医療・業務運営におけるDX改革を推進し、医師・研究者をはじめとするすべての職員がより効率的に成果を上げられる環境整備に努めてまいります。

この4月より、医学部および看護学部の組織改編が実施され、医学部内に「医学科(医学専攻)」および「保健医療学科(看護学専攻、リハビリテーション医学専攻)」が設置され、新たな体制がスタートしました。今後は、医学部内の各専攻間の連携をより一層推進し、学際的かつ先進的な研究・教育の展開を目指してまいります。

研究面では、学部横断的な異分野融合型「卓越研究グループ」が立ち上がり、基礎と臨床の垣根を越えた協働により、若手研究者の育成と研究力強化が進められています。近年の研究の高度化に対応するためには、共用機器センターの充実が必要不可欠と考えています。本学は2021年度に文科省の「先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)」に採択され、高額機器の整備・共用利用の体制強化が進められています。医学研究科の一層の研究力強化のため、今後も技術職員の配置や予算の確保を行い、高度かつ高額な研究機器を駆使した研究環境のさらなる向上を目指します。

教育面では、2026年6月に受審が決定した日本医学教育評価機構の分野別評価に向け、教職員一丸となって診療参加型臨床実習やアクティブ・ラーニングの強化、新たな評価法の導入、さらに臨床実習生・指導医双方の意識改革に取り組んでいます。

世界レベルの視野を持ちながらも、地域に根ざしたキラリと光る特色と魅力を持って発展していくことが大切であると考えます。より一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文責：消化器・代謝内科学 教授 片岡 洋望



“瑞医の由来”

『瑞医(ずいい)』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

名古屋市立大学病院新病院長のあいさつ

2025年4月1日より名古屋市立大学病院病院長を拝命した松川則之です。

名古屋市立大学病院は、安心安全な医療、質の高い医療・高度先進医療の提供を実践しています。がん診療では診療科を超えた集約的治療を目指して、がん診療・包括ケアセンターを設置し、緩和ケア・がんゲノム医療も含めた治療を実施しています。特に高精度放射線治療センター、ロボット支援手術を用いた低侵襲手術センターを設置し、質の高いがん診療を提供します。また、不育・不妊センター、周産期母子医療センターおよびこころの発達診療研究センターにより、妊娠・出産から小児発達に関する医療的支援をしています。2026年開設予定の救急災害医療センターでは市民のみなさまに良質な医療提供のみならず、“3-5年研修すれば内科的疾患から外科的疾患・外傷までの対応が可能になる”、若い医療人の教育の場としての準備をしています。

引き続きご支援・ご鞭撻いただけますようお願い致します。

文責：名古屋市立大学病院 病院長 松川 則之



リハビリテーション病院開院&新病院長のあいさつ

2025年4月、名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院は、瑞穂区密柑山の地に産声を上げました。病床数80(回復期47、地域一般33)で、リハビリテーション科、整形外科、内科、脳神経内科、循環器内科、放射線科を中心に、附属病院群より応援を得て、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、歯科の診療体制を敷いています。高次脳機能障害を含む脳血管障害、骨折・整形外科術後等の入院受け入れのほか、外来における心臓リハビリテーションにも力を入れております。医療DXを推進するとともに、最新の知見に基づいた質の高いリハビリテーション医療を提供し、多職種連携により在宅復帰・社会復帰を支援いたします。また、新たに医療福祉センターを設置し、医療福祉分野における専門職の育成、臨床研究の推進、社会貢献に取り組んでまいります。あたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文責：リハビリテーション病院 病院長 山下 純世



東部医療センター新病院長のあいさつ ～躍進し続ける東部医療センター～

病院長を拝命しました林祐太郎です。当院は大学病院となって4年が経過しました。救急車の応需は従来年間7,000台弱でしたが、昨年度は8,000台を越えました。救命救急センターとして、心臓血管や脳血管の重症疾患の患者や、小児救急患者を受け入れ、地域救急医療に貢献しています。当院の使命である感染症診療では、新型コロナウイルス感染症パンデミックのなかで、市民の生命を守る中心的役割を果たしました。とくに新興感染症対策への重要施策として感染症学分野が設置され、感染症の専門医を養成しています。また、合併症の多い高齢者の皆さまのがん治療の中心的医療機関となるべく、多くのがん専門医を教授として招聘し、がん診療体制の充実・強化を図りました。消化器外科、産婦人科、泌尿器科を中心に、手術用ロボット「da Vinci Xi」を用いたがん手術を行っています。昨年度ロボット1台当たりの手術件数が300件近くとなり、全国でトップクラスの実績となりました。さらに、愛知県のがん診療拠点病院の指定獲得をめざして、無菌室を整備したうえでの白血病治療や、がん化学療法や放射線療法を含めた総合的ながん治療を進めています。これらの医療を担う専門医と初期臨床研修医・専攻医の診療・研究・教育が充実し深化するよう、研究室や各診療科の医局を整備しています。東部医療センターは市民の皆さまから愛され慕われる病院をめざして躍進し続けます。どうか引き続きのご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

文責：東部医療センター 病院長 林 祐太郎

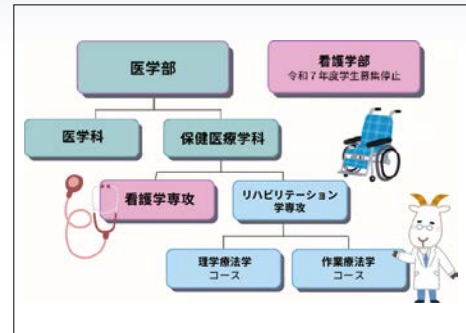


令和7年度 名古屋市立大学医学部に保健医療学科が誕生

令和7年度より、医学部と看護学部が組織再編され、医学部には従来の医学科に加え、保健医療学科が加わりました。

保健医療学科には、看護学部から移行した看護学専攻と、理学療法士および作業療法士を養成するリハビリテーション学専攻の2専攻が設置されています。

令和7年4月には、医学科に97名、保健医療学科看護学専攻に121名、リハビリテーション学専攻に80名の新生を迎え、名古屋市立大学医学部の新たな1ページがスタートしました。



令和7年度 医学部新生保護者説明会を開催しました

令和7年4月2日(水)、医学部医学科および保健医療学科の保護者説明会が桜山キャンパスにて開催されました。入学式終了後に行われたこの説明会では、各学科・専攻ごとに分かれ、本学のカリキュラムや学生指導について紹介しました。保護者の皆様には、本学の教育方針や名古屋市立大学病院について理解を深めていただく機会となりました。

その後、医学科と看護学専攻の保護者を対象に施設見学会が行われました。医学科の保護者は臨床シミュレーションセンターなど市立大学病院の施設、先端医療技術イノベーションセンター、顕微形態実習室などを見学し、看護学専攻の保護者は市立大学病院を訪れました。

この説明会と見学会を通じて、保護者の皆様には医師、看護師、理学療法士、作業療法士として成長するまでの道のりや、本学の教育施設を身近に体感していただく貴重な機会となりました。



施設見学会の様子

本学と蒲郡市、名古屋市が新看護学教育施設の設置に向けて基本協定を締結

名古屋市立大学と蒲郡市は、これまで寄付講座の設置、医師の人事交流、学生の受け入れ・指導など、様々な分野で連携・協力関係を築いてきました。蒲郡市からの要請を受け、名古屋大都市圏における良質で安定的な医療の提供を目指し、蒲郡市内で高い能力を持つ看護職の養成および地域の特徴を活かした看護教育・研究分野の推進・拡充を図るため、蒲郡市立ソフィア看護専門学校の施設を活用して新たな看護学教育施設を設置することとなりました。

令和7年3月27日、蒲郡市、名古屋市、本学は「名古屋市立大学における蒲郡市での新たな看護学教育施設の設置準備及び運営に関する基本協定」を締結しました。令和9年4月に医学部保健医療学科に新たな看護師養成課程を設置することを目標に、令和7年度から蒲郡市と本学において専任の教職員を配置し、準備を開始しています。教員、職員一丸となって、開設に向けて準備を進めてまいります。



文責：医学部事務局

退任教授紹介

東部医療センター 病院長 大手 信之 教授

医学研究科教授退職後も東部医療センター病院長として、研究科教授会に正規メンバーとして参加させていただきました。現職教授の先生方に受け入れていただきましたことに心より感謝申し上げます。名市大病院に比べて他の附属病院の存在感が希薄になってはいけないとの思いから時には意見を述べさせていただき、また時には病院の方向性をアピールさせていただきました。またこの間、感染症学分野の東部医療センターへの設置および十数名に及ぶ教授配置をお認めいただきましたことに改めて御礼申し上げます。東部医療センターは名実ともに名市大附属病院の立ち位置を確立できたのではないのでしょうか。4月1日より名市大の重要な関連病院である豊川市民病院に病院事業管理者として赴任させていただいております。これまで以上に相互にメリットが共有できるような名市大と豊川市民病院の連携の構築にお役に立ちたいと存じております。引き続きのご指導・ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



大手 信之 教授

退任教授紹介

呼吸器・アレルギー内科学 新実 彰男 教授

2025年3月31日をもって名古屋市立大学大学院医学研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学分野教授を定年退職致しました。2012年に教授就任して以来、13年間多くの皆様のご支援、ご指導、お力添えをいただき、任期を全うできました。厚くお礼を申し上げます。

私は1985年に京都大学医学部を卒業し、京都大学助手/助教・講師・准教授を経て、本学に赴任しました。名市大病院においては2017年より病院長補佐を5年間、2022年より同副病院長を2年間兼任しました。

耳鼻咽喉科、消化器内科グループや機能組織学分野との共同研究を含めて本学でもライフワークである喘息・咳嗽の研究を一貫して継続し、研究成果を診療に還元できた幸福な教員人生でした。

定年後は地域医療に貢献しながら臨床研究にも関わっていきたくと考えています。今後とも倍旧のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



新実 彰男 教授

退任教授紹介

心臓血管外科学 須田 久雄 教授

2009年に東市民病院(現東部医療センター)心臓血管外科開設に際して、遠く九州の地から名市大の仲間に加えて頂き、2015年からは桜山で成人心臓手術を担当させていただきました。

この間多くの卒業生が門を叩いてくれ、充実した時を過ごすことができました。重症例・緊急例を断らないという信念のもと臨床一筋でしたが、将来を託すことができる熱意ある多くの後輩を迎えることができたことが唯一の業績であったと思っております。

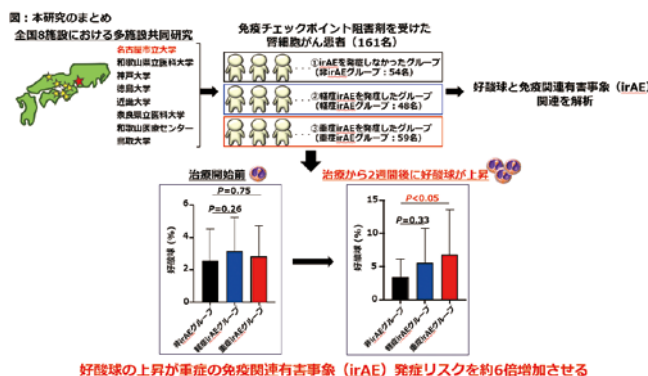
これからの名市大の益々の発展を祈念して、お世話になったお礼とさせていただきます。



須田 久雄 教授

腎細胞がんに対する免疫チェックポイント阻害剤による重症の免疫関連有害事象(irAE)発症を予測するバイオマーカーを発見

免疫チェックポイント阻害剤は、これまで有効な治療法が確立されていなかった腎細胞がん患者の生存期間を改善させる画期的な治療となりました。一方で、免疫チェックポイント阻害剤は全身の臓器に対して重症かつ致死的な免疫関連有害事象(irAE)を引き起こすことが問題となっています。しかし、現在に至るまで重症irAEの発症を予測する方法は確立されていませんでした。このような状況の中、我々は免疫チェックポイント阻害剤による治療開始から2週間後に好酸球が上昇した患者は、重症irAEを発症するリスクが約6倍高くなることを明らかにしました。治療期間中に好酸球の変動をモニタリングすることは、重症irAEに対する早期診断・早期治療の一助となる可能性があります。そして、免疫チェックポイント阻害剤による治療を安全かつ継続的に行うことにつながり、治療効果を最大限に高めることが期待されます。研究成果はFrontiers in Immunologyに掲載されました(PMID: 39850887)。



文責：臨床薬理学 研究員 田崎 慶彦
腎・泌尿器科学 准教授 濱本 周造

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)において 妊娠中期の尿中ニトロフェノール類濃度と 早産、在胎不当過小※との関連を解明

※在胎不当過小：新生児の出生体重が子宮の中にいた週数に対応する標準出生体重と比べて小さく、小さい方から10%未満に入ること。

胎児は母体を通して曝(さら)される化学物質の影響を受けやすく、どのような物質の影響を受けるのかは環境保健の重要なテーマです。名古屋市は、全国15地区で10万組の母子が参加する環境省事業「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の研究拠点の1つです。我々はエコチル調査において、妊娠中期の尿中4-ニトロフェノールと3-メチル-4-ニトロフェノールの両方の濃度が高い妊婦では、早産となる男児および出生時の在胎不当過小の女児の割合が多い傾向であること、2つの物質の濃度が測定できないレベルまで下がると男児の早産の16.3%が減る可能性を明らかにしました。2つの物質と低出生体重児や子どもの4歳時点の精神神経発達との関連はありませんでした。尿中のニトロフェノール類が環境中のどの物質に由来するのかは、今後の研究の課題です。研究成果は専門学術誌Environmental Researchに掲載されました(PMID: 39510238)。



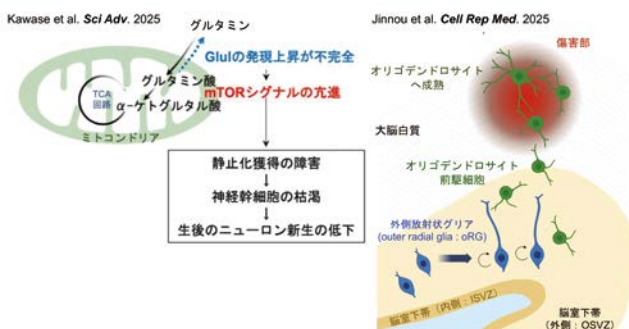
文責：環境労働衛生学分野 教授 上島 通浩

「生まれる」ことで脳が発達する～早産児脳障害の病態メカニズムが明らかに～ ヒトの新生児脳がもつ再生メカニズムを発見（新生児脳障害の再生医療の実現化に期待）

周産期医療の進歩により新生児生存率は向上しましたが、早産児では発達遅滞を高率に合併することが問題となっています。私たちはメタボローム・シングルセル遺伝子解析を用い、出生時のグルタミン代謝変動によって脳内の神経幹細胞が維持されること、早産ではこのプロセスが障害されて神経幹細胞からのニューロン新生が低下することを発見しました (Kawase et al. Science Advances 2025 [PMID: 39841848])。

また、現在でも虚血性の新生児脳障害は発生しており、根本的治療法の開発が急務です。私たちは国際共同研究で、ヒトの新生児脳に特有の神経幹細胞である外側放射状グリアがATF5シグナルを介して増殖能を増強させること、この経路を活性化する薬剤をヒトと類似した脳構造を持つ新生仔ブタへ経鼻投与することで、大脳白質の再生と運動機能の改善が促進されることを明らかにしました (Jinnou et al. Cell Reports Medicine 2025 [PMID: 40023165])。

これらの結果は、早産児の脳発達の解明および新生児脳障害の再生医療の実現化への大きな前進であり、名古屋市立大学の臨床分野と基礎分野の連携による総合的研究力の成果です。今後もこの協力体制を基盤に研究を発展させ、将来の臨床応用を目指します。

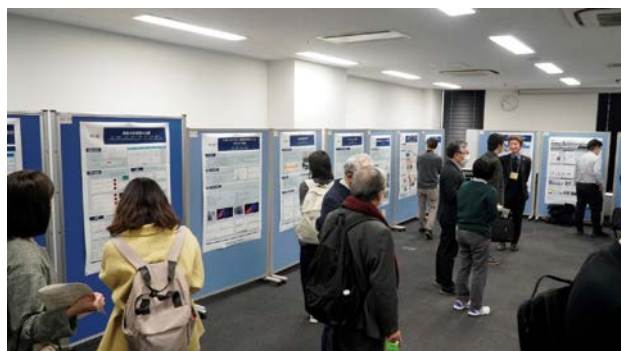


文責：脳神経科学研究所 教授 澤本 和延
新生児・小児医学 助教 神農 英雄

名工大×名市大技術及び共同利用に関する情報交換

共同研究教育センター／共用機器センターは、医学研究科や他研究科、附属病院群の研究者が使用する大型研究機器の維持管理及び研究支援を行っております。技術向上等を目的に名古屋工業大学と2018年度より技術職員の日常業務に関し、年1回情報交換会を行っております。2024年度は本学が幹事校となり、名古屋市工業研究所、東海国立大学機構（名古屋大学を含む。）、信州大学、大阪公立大学等14機関から合計67名が参加（本学からは教員、技術職員、事務職員及びプロジェクト推進員の計20名参加）し、ウイנקあいちで開催されました。当日は、北海道大学からゲストをお招きし「技術職員のたたずまいとキャリア」と題した講演のほか各機関からの参加者による施設紹介やポスター発表の場を通して、各機関等の垣根を越えた交流を図ることができました。この取組みによる成果については、日常業務に活かしていきたいと考えておりますので引き続き支援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

文責：共同研究教育センター・共用機器センター・研究推進課



令和6年度「東海がん医療人材養成プラン」実績報告

令和5年度より名古屋大学を主幹校とし取り組み始めた『東海がん専門医療人材養成プラン』では、令和6年度は大学院正規コースとして博士課程に2科目を開講しました。この科目は本プランに参加する東海3圏に医学部・薬学部を置く7大学の講義がオンデマンドで自由に受けられる点も大きな魅力となっており、次世代がん医療コースでは25名の、新治療開発コースでは10名の学生がコースを修了しました。新治療開発コースではこれまでの大学院講義にはなかった実習も加わり、医師以外の多職種の学生も参加することで活気ある講義になっています。

また、大学院生以外でも本養成プランに提供される大学院正規課程の講義を無料で受けられるインテンプコースでは、他研究科の学生や附属病院群のメディカルスタッフを含む4名の方が修了しました。

12月に開催したセミナーは『患者目線でのがん緩和ケアの進歩』をテーマとし、あすなろ医院の渡邊紘章先生には在宅緩和ケアにおける支援の実態を、国立がん研究センターの藤森麻衣子先生には研究データに基づいた患者への意思決定支援についてご講演いただきました。ハイブリッド開催で100名以上の方にご参加いただき、「自身の役割を改めて見直すきっかけとなった」「がん患者とのコミュニケーションという言葉化しにくいことを、科学的に学ぶことができた」等の感想をいただきました。

今後も連携校との協力のもと、質の高い講義やセミナーを開催し、これからのがん医療に求められる人材の育成に取り組んでいきます。

文責：医学部事務室



卓越研究グループ支援事業について

令和6年度からなごや先端研究開発センターでは、世界レベルの研究拠点の形成に向けた卓越研究グループ支援事業として研究グループを支援しており、令和6年度は、澤本和延教授が代表者の「脳神経科学の将来を担う若手研究者の育成と共同研究支援による研究力強化促進プロジェクト」と、森田明理教授が代表者の「光が切り拓く新たな研究開発拠点形成」が採択されました。

澤本教授のグループでは、令和7年1月17日にキックオフシンポジウムを開催し、基礎研究から臨床研究まで多岐にわたる研究者が一堂に会し、活発な議論が行われました。

森田教授のグループでは、令和7年1月17日にプレスセミナー「名市大初「光技術研究拠点」、医薬工融合で多分野応用へ 『光』が切り拓く医療の未来～難治性皮膚疾患やがんなどへの新治療法確立 認知症・うつ病の治療も視野に～」を開催しました。

それぞれのグループの活動等の詳細はホームページからもご覧になれます。

文責：医学研究推進課



神経科学卓越研究
グループHP



光が切り拓く新たな
研究開発拠点形成HP



キックオフシンポジウム



プレスセミナー

臨床研修医の修了式、辞令交付式

初期臨床研修プログラム修了式が行われました

2025年3月17日(月)に、令和5年度臨床研修プログラム修了式が行われました。研修医36名の研修修了が認定され、病院長による激励のメッセージとともに研修医へ修了証が授与されました。各研修医はこれからそれぞれの専門の道に進めますが、2年間の当院での研修経験を十分に活かして、各方面での大活躍を期待しています。

令和7年度初期研修医辞令交付式がおこなわれました

2025年3月24日(月)に令和7年度初期研修医辞令交付式が行われました。4月から36名が当院研修プログラムでの研修を行います。これから2年間の初期臨床研修を始めるにあたり、研修センター長より激励のメッセージとともに辞令が交付されました。36名の皆さんが互いに助け合って充実した研修生活を送ることができるように心より願っています。



文責:総合研修センター センター長 村上 英樹

令和6年度卒業式および卒業証書・学位記授与式

令和7年3月21日(金)晴天に恵まれた素晴らしい日に令和6年度卒業式および卒業証書・学位記授与式が行われました。卒業式は午前にNiterra日本特殊陶業市民会館にて学長をはじめ、名古屋市長、名古屋市会議長による祝辞を賜り、卒業生の門出を祝福いただきました。

卒業式に引き続き午後には医学部生卒業証書・学位記授与式が桜山キャンパス・さくら講堂で行われました。卒業生たちは6年間に渡り慣れ親しんだ桜山キャンパスで卒業証書を授与され晴れやかな表情がとても印象的でした。式典が終わると、大学生活を共に過ごした仲間たちとの時間を存分に楽しむ姿が見られ、卒業生にとって思い出深いひとときになったと思います。大学での貴重な経験や築いた友情が今後の人生において大きな支えとなることを願っています。

文責:医学部事務局



医師・看護師国家試験結果について

第118回医師国家試験が令和7年2月8日(土)、9日(日)に実施され、第114回看護師国家試験が令和7年2月16日(日)に実施されました。医師国家試験については新卒者99名のうち、94名が合格、合格率94.9%という結果となりました。看護師国家試験については新卒者79名のうち、79名が合格、合格率100%となりました。

国家試験は団体戦だと言われます。同級生同士で支え合い、努力し続けた結果だと思います。

文責:医学部事務局

令和6年度 医師国家試験結果

第119回本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第118回
本学(新卒)	99	94	94.9%	98.2%
本学(既卒)	1	1	100%	100%
本学(全体)	100	95	95.0%	98.2%

第119回全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第118回
全国(新卒)	9,717	9,029	95.0%	95.4%
全国(全体)	10,544	9,486	92.3%	92.4%

令和6年度 看護師国家試験結果

第114回本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第113回
本学(新卒)	79	79	100%	98%
本学(全体)	79	79	100%	98%

第114回全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考)第113回
全国(新卒)	56,035	53,718	95.59%	93.2%
全国(全体)	63,131	56,906	90.1%	87.8%

救急災害医療センターの建設について —地域の安心・安全を守る新たな拠点づくり／名市大病院

当院では令和8年度開棟予定の「救急災害医療センター」を建設中です。当施設は、高齢化進展に伴う名古屋市内の救急搬送の増加に対応すること、南海トラフ地震など災害発生時に津波の影響を受けない最前線の災害拠点病院として災害医療活動を行うこと、救急科専門医不足に対する人材育成に対応することを目的に整備が進められています。

建物は地下1階地上8階建てとなっており、救命救急センターをはじめ、ドクターカーの拠点となるE-ステーション、検査部門、集中治療部門、周産期部門、手術部門、透析部門など様々な医療機能を備えるほか、シミュレーションセンターや屋上ヘリポートも整備予定となっております。また、1階には患者さんや職員が利用できるコンビニ・レストランも整備し、福利厚生施設も充実していきます。地下1階は地下鉄桜山駅と地下通路で繋がるため、公共交通機関を利用した移動がさらにスムーズになり、より快適なアクセス環境が提供されます。既存棟と新棟は地下1階の地下通路および地上1階から地上5階にかけての渡り廊下で繋がります。新棟と環状線の間には「さくらひろば」と名付けたスペースを設け、職員だけでなく、近隣の方々にとっても、リラックスしたひとときを過ごすことができ、大切な憩いの場となることを目指しています。

工事期間中につきましては、一部ご不便をおかけすることがあるかと思いますが、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

文責：名市大病院管理課



救急災害医療センター 外観イメージ

令和6年度 経営改善講演会を開催しました／名市大病院

令和7年1月24日(金)に令和6年度 経営改善講演会を開催しました。

今回は、佐賀大学医学部附属病院で病院長を務められている野口 満先生を講師にお招きしました。佐賀大学医学部附属病院は、国公立大学病院のなかで、経常損益が平成30年に1位になって以来、毎年ベスト3内に入っております。その佐賀大学医学部附属病院で令和4年から病院長を務められている野口先生に、『厳しい病院運営・経営を乗り切るには』というテーマで、ご講演いただきました。

当日は、佐賀大学医学部附属病院で実践されている具体的な経営改善策をご紹介くださり、時折笑い声が起こる活気あふれる講演会となりました。また、会場での参加が約200名、オンラインでの参加が約140名と、総勢約340名の方にご参加いただきました。

今後は、今般の講演会を活かし、病院経営に対する職員の意識啓発等に取り組んで参りたいと考えています。

文責:名市大病院経営課



「運転外来」開設に関する記者会見および内覧会を行いました／東部医療センター

東部医療センター眼科では、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金ならびに「視覚障害者の安全運転支援プロジェクト」のご支援を受け、2025年4月1日に「運転外来」を開設いたしました。本外来は、全国で4か所目、東海地方では初の設置となります。

4月4日には、開設に伴い記者会見を開催いたしました。当日は、林祐太郎新病院長よりご挨拶をいただくとともに、「運転外来」の第一人者である西葛西・井上眼科病院副院長の國松志保先生にもご同席いただき、外来の目的やドライビングシミュレータの機能についてご説明いただきました。

「運転外来」では、両眼に視野異常のある方を対象に、視線計測機能を搭載したドライビングシミュレータを用いて運転能力の評価を行います。視野に異常があっても自覚症状のないまま運転を継続している方も少なくない現状をふまえ、ご自身の視野と運転能力の関係を正しく理解し、安全な運転に活かしていただくことを最大の目的としています。

記者会見では、来場された報道関係者の皆様にも、実際にシミュレータを体験していただきました。開設以来、運転外来には近隣医療機関に加え、県内各地からもご紹介をいただいております。東部医療センター眼科スタッフ一同、気を引き締めて本事業に取り組んでまいります。



文責:眼科・レーザー治療センター センター長 野崎 実穂

04 お知らせ Information

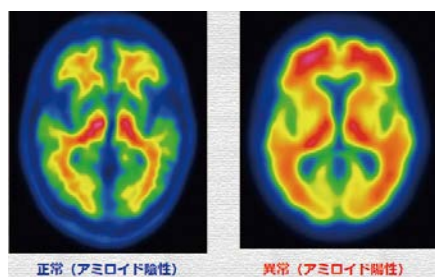
DMTメモリー外来を開設しました／西部医療センター

アルツハイマー病(AD)は認知症の原因の第1位で、これまでは症状改善薬(コリンエステラーゼ阻害薬、メマンチン)が使用されてきましたが、認知機能低下を抑制できませんでした。しかし、近年、脳内蓄積アミロイドβ蛋白(Aβ)を標的とした抗Aβ抗体薬が開発され、ADのアミロイドカスケード仮説の上流に位置するAβを除去することで、認知機能低下の進行を抑制する疾患修飾療法(DMT)が、2023年にレカネマブ、2024年にドナネマブとして、実臨床で使用可能となりました。早期ADの段階で治療を行うことが必須であり、軽度ADだけでなく、ADによる軽度認知障害(MCI)も治療対象となるため、より精緻な臨床診断(図1)が求められるため、当院においても2024年2月にDMTメモリー外来を開設しました。

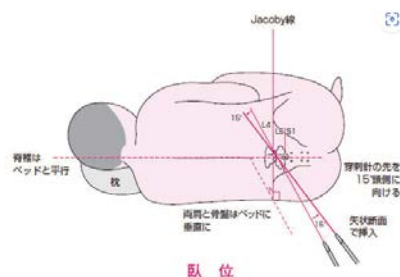
認知症診療の窓口となる「かかりつけ医」によるMCIの早期発見と市民による名古屋市もの忘れ検診(無料)の受診率向上が課題と考えています。

文責:脳神経内科 診療科部長 片田 栄一

図1 必要な検査



A. アミロイドPET/CT検査



B. 脳脊髄液検査

認知症カフェ／みどり市民病院

令和7年2月6日(木)に天白図書館で開催された「図書館カフェ(天白区認知症カフェ)」にみどり市民病院の看護師と社会福祉士が参加しました。認知症カフェは、認知症の方のみならず介護をされるご家族や地域の方などでも参加できる地域交流の場です。

当日は、開場時間を待っていたかのように多くの方が訪問され、すぐに満席となりました。参加される皆さんと一緒に脳トレクイズやハンドマッサージを楽しんだり、血圧測定・介護相談をしたり、認知症ケアマップの紹介を行いました。認知症ケアマップは、認知症の方の落ち着いた手を穏やかに暖かく包み、視覚や触覚に働きかけ、快の刺激で心を整え穏やかにするケアの一つです。みどり市民病院で職員や地域ボランティアとともに取り組む活動を紹介しました。また、手と手を触れ合いながらゆっくりお話しできる看護師とセラピストによるハンドマッサージは大好評で、参加された方から「また来てもらいたい。」とリクエストの声があがりました。地域の健康と暮らしをささえる地域貢献型大学病院として、看護師や社会福祉士が直接地域に出かけ、地域の皆さんの暮らしを知る良い機会となりました。

文責:みどり市民病院経営課



制作した認知症ケアマップ

褥瘡対策勉強会を開催しました／みらい光生病院

みらい光生病院では、2025年2月21日(金)に、企業様および名古屋市立大学病院のご協力をいただき、院内職員を対象とした多職種参加型の褥瘡対策勉強会を開催しました。

高齢化が進む社会では、寝たがりの患者さんや車いすを使用する患者さんが増加すると予想されます。このような患者さんは褥瘡の発生リスクが高まるため、今後、褥瘡の発症件数が増加することが懸念されています。

当日は、医師をはじめとする多職種が多数参加し、会場は満員となりました。参加者全員が褥瘡対策への理解を深めるとともに、日々の医療現場での実践に役立つ貴重な機会となりました。

今後も地域から信頼され、「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を提供できるよう努めてまいります。

文責:みらい光生病院経営課



褥瘡対策勉強会の様子

2025年は開学75周年!交流会とともに記念事業を行います

1950年4月に開学した名古屋市立大学は、今年2025年に75周年を迎えます。これを契機として、名古屋市立大学交流会との共催による記念事業を実施いたします。

現在、2026年2月に記念式典の開催を予定している他、今後、開学75周年記念事業実行委員会および各記念事業の検討部会を立ち上げ、学内教職員・交流会が一体となって開学75周年を記念する事業の企画検討を進めていきます。

今年度、新たにデータサイエンス研究科やリハビリテーション病院を加え、7学部8研究科6附属病院をもつ総合大学となった名古屋市立大学。今後さらなる発展を目指す本学において、ルーツの異なる学部や病院、そして交流会が一つとなり、結束を強める機会としたいと思います。

つきましては、今後の周年記念事業へのご協力の程、よろしくお願いいたします。

文責:総務課・企画課

広報誌：瑞 医(ずいい)

発 行：〒467-8602

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL(052)858-7116 FAX(052)851-4801

URL <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

我こそは
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新的话题をお届けして下さるサポーター大募集!
「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。
我こそは、という方は、E-Mail: hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp
病院管理部経営課経営係 広報担当まで

※次号の発行は2025年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]